

## 三嶺の森をシカから守ろう

### 緑を守り増やす取組みを

五月二十五日(土)、香美市の三嶺山系で、ポランティアらによる植生の保全と再生活動が行われました。

さおりが原・カヤハゲ等ではシカの食害により、裸地状態になった場所に、ポランティア等により土砂流出を防ぐマットやシカ柵防護ネット等を作設しています。

この取組みは、「三嶺の森をまもるみんなの会」と高知中部森林管理署が連携して開催した活動で、およそ一〇名のポランティア等が参加しました。

当日は、劣化したシカネットの張替え(写真)や樹木に巻き付けていたネットを樹木の生長に合わせて巻き直す作業などを行いました。参加者は談笑しながらも三嶺山系の緑を守り、増やす取組みを実感していました。



この活動は、平成一九年から始め、現在は植生の回復が見られています。参加された皆さま、局署員の皆さま、ご苦労さまでした。

## コウヨウザンの芽かきを実施

四万十森林管理署管内、辛川山国有林に「コウヨウザンぼう芽更新試験地」を設定し、森林総合研究所林木育種センターと、「コウヨウザン植栽地における共同研究に係る協定」を締結(平成28年12月)

第一世代は、昭和8年3月に植栽。昭和63年8月に伐採・搬出。その後、ぼう芽更新した第二世代を、平成30年2月に間伐。

### 第三世代の芽かき

5月14日・15日の二日間、協定に基づいて、ぼう芽枝の芽かき作業等を実施。芽かきの対象株は30株。仕立て(残す本数)は、照度毎に1本・4本(写真左芽かき前、右芽かき後)・12本残し・無処理の4タイプ。



芽かきしたぼう芽枝は、1株あたり48本から711本あり、現地で根元径・樹高を計測(合計9,718本)

芽かき後の成長調査等も継続して実施します。芽かき作業等に参加された皆さま方、ごくろう様でした。

知っ得  
豆知識

「叩いて木の強さがわかる」って



生きた樹木(立ち木)は叩いたとき、音の伝わる時間が短い(速度が速い)ほど強さも大きい傾向がある。樹木中を音が伝わる速さは樹種によって異なる。

スギを例として樹木中に伝わる音の速さで比較。秒速で表すと、強さが大きなスギでは毎秒4km、強さが小さなスギでは毎秒2km、音が5分間で伝わる距離は、前者は東京から博多、後者は東京から神戸に至る違い。強さが大きなものは建物の構造用、小さなものは造作用に、適材適所で。

樹木中を伝わる音の速さは、市販されているセンサで容易に計測可。近い将来、住まいの材料として、伐採する樹木を選んだり、強さが大きく優れた樹木を探したりするため、森の中でコツコツと木を叩く人を見かけるかも。

木のビックリ話100(日本木材学会編)

### 編集後記

5月下旬には、最高気温が全国で35°を超える日々も。梅雨の季節と暑さにも備えた体調管理に心がけましょう。